

大会名 Competition	第38回 能代カップ 高校選抜バスケットボール大会
NO. M-102	Year Month Day Time 2025 年 5 月 3 日 13 : 50
場所 Place	能代市ニツ井町総合体育館

発行：能代市バスケットボール協会
http://ncup.snowland.net



チームA		チームB										
駒大苫小牧	<table border="1"> <tr><td>25 1st</td><td>21</td></tr> <tr><td>28 2nd</td><td>16</td></tr> <tr><td>19 3rd</td><td>19</td></tr> <tr><td>29 4th</td><td>16</td></tr> <tr><td>0 T</td><td></td></tr> </table>	25 1st	21	28 2nd	16	19 3rd	19	29 4th	16	0 T		能代科技
25 1st	21											
28 2nd	16											
19 3rd	19											
29 4th	16											
0 T												
101 ○		72 ●										

主審:Crew chief
村上 智志 山形
副審:Umpire
菊地 拓希 宮城
佐々木 飛翔 秋田
テーブル・オフィシャル:Table officials
秋田県バスケットボール協会T0委員会

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F
2	×	宮森 昊太	cap	10	0	5	0	2	4		佐藤 悠斗		-	-	-	-	0
5	×	遠藤 三太		13	2	3	1	1	5	×	金 隼輝		5	1	1	0	2
6	/	菅野 幸志		6	2	0	0	2	6	×	信太 虹輝		19	5	2	0	2
8	/	佐々木 海波斗		15	0	5	5	1	7	×	高坂 岳	cap	21	3	3	6	4
11		浜瀬 光希		-	-	-	-	0	8	/	下田 瑛斗		0	0	0	0	1
12	×	坂井 琉晟		2	0	1	0	2	9	/	山崎 七星		12	1	3	3	2
13	×	升屋 杏太		11	3	1	0	2	10		安藤 璃琥		-	-	-	-	0
20	×	オヨリ マーベラス オルワトヨシ		16	0	8	0	1	11	×	宮田 蒼羽		7	1	2	0	2
21		齊藤 龍明		-	-	-	-	0	12	×	松田 来翔		4	1	0	1	0
24	/	野中 友惺		2	0	0	2	0	13		近藤 愛翔		-	-	-	-	0
25	/	垣内 雄士郎		13	1	5	0	1	14	/	岸部 瑛大		0	0	0	0	0
32	/	田島 翼		2	0	1	0	1	15	/	熊澤 隼		0	0	0	0	1
34	/	アノイモ サイモン ビデミ		11	0	5	1	1	16		名古屋 蒼良		-	-	-	-	0
35	/	熊谷 海凜		0	0	0	0	1	17	/	大嶋 遥佳		4	1	0	1	2
55	/	袋井 想之介		0	0	0	0	1	19	/	黒澤 啓太		0	0	0	0	0
コーチ		田島 範人						0	コーチ		長谷川 聡						0
アシ		スティーブン ジェームス 佑樹						0	アシ		遠田 貴大						0
合計				101	8	34	9	16	合計				72	13	11	11	16

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3Pポイントシュート 2P:2Pポイントシュート FT:フリースロー F:ファウル

Score ranking[Team]

1	16	15.84%	オヨリ マーベラス オルワトヨシ
2	15	14.85%	佐々木 海波斗
3	13	12.87%	遠藤 三太
			垣内 雄士郎

1	21	29.17%	高坂 岳
2	19	26.39%	信太 虹輝
3	12	16.67%	山崎 七星

Score ranking[Game]

1	21	高坂 岳	能代科技	2	19	信太 虹輝	能代科技	3	16	オヨリ マーベラス オルワトヨシ	駒大苫小牧
---	----	------	------	---	----	-------	------	---	----	------------------	-------

栄光の能代に試練の春。初戦黒星発進の能代科技に「北の壁」駒大苫小牧が今年も牙を剥き、冷たい風を吹き込む。

1Q、能代科技が誇る伝統の堅守速攻は、駒大苫小牧の#2宮森を起点とした冷静な攻撃に封じられる。開始5分で10点差をつけられ、苦しい滑り出しとなった。一方で、#6信太の3Pや冷静な得点が光り、チームは徐々に流れを取り戻す。粘り強い追い上げを見せ、25-21と4点差に詰めた。

2Q、駒大苫小牧の守備網はまさに「北の壁」。能代科技は激しいプレッシャーに苦しみ、ボール展開に手間取る。しかし#7高坂がオフェンスリバウンドに飛び込み、獲得したフリースローを確実に沈めるなど、細かいプレーで得点をつなぐ。前半の安定感を活かした駒大苫小牧がリードし、53-37で折り返した。

3Q、両チームともにミスが目立つ時間帯に。パスミスや判断の遅れなどが散見され、新チームならではの不安定さが露呈。高い個の力を持つ能代科技だが、連携の甘さが足を引っ張る。一方、駒大苫小牧もテンポが悪く、攻守ともに精彩を欠く場面が続いた。72-56で点差変わらず。

4Q、能代科技はディフェンスをゾーンに変え、巻き返しの糸口を探る。駒大苫小牧は#20マーベラスが恵まれた体格を活かし、ハイポストやローポストで起点となるプレーを展開。ガード陣もスピード感のある展開を見せるが、折雑なパスやシュート選択も目立った。しかし点差は開き、101-72で試合終了。

能代科技は高い個人技で打開を図る場面が多く、その爆発力は脅威となったが、連携面や判断力に課題を残す内容となった。駒大苫小牧は、厚い選手層を活かしてチーム全体で戦ったが、勢いを持続できない試合運びに粗さが見えた。個と組織、真逆のスタイルのぶつかり合いは、それぞれの持ち味と課題が色濃く浮かび上がる試合となった。

文責 【 木村 三星 】